

-----  
[ 成果情報名 ] 夏秋ギクの黄色系新系統「福花10号」

[ 要約 ] 夏秋ギクの黄色系統として、花色が濃黄で側枝の発生が少なく、7月及び8月出し電照抑制栽培が可能で、夏期の高温下で貫生花等奇形花が発生しない「福花10号」を育成した。

[ キーワード ] 夏秋ギク、黄色系統、電照抑制栽培、品種育成

[ 担当部署 ] 花き部・花き育種チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4958

[ 対照作物 ] 花き・花木

[ 専用項目 ] 育種

[ 成果分類 ] 品種育成  
-----

[ 背景・ねらい ]

夏秋ギクの施設栽培では白色系の「優花」が主要品種であり、6月から9月まで電照抑制栽培によって出荷されている。一方、黄色系品種では「サマーイエロー」や「古城」などが6～7月に出荷されているが、「サマーイエロー」は夏ギク品種で電照抑制効果がなく、また「古城」など多くの黄色系品種は8月以降の高温期には開花遅延や奇形花などが発生し、問題となっている。

そこで、夏秋ギクの黄色系統について、6～9月の長期間にわたり電照抑制栽培が可能で、高温による奇形花の発生がなく、切り花品質が優れる品種を育成する。（要望機関名：生産流通課、朝倉・八女・飯塚・田川普、JA全農ふくれん(H9、12、15)）

[ 成果の内容・特徴 ]

1．「福花10号」は、平成16年に本場保有の「精雲」等白色系夏秋ギク系統群300株を集団栽培し、集団内の個体間による交雑により約800粒の種子を得た。17年に、これらの実生740株の中から黄色系で花容・草姿が優れる系統の1次選抜を行い、18年に電照抑制7月出しおよび8月出し栽培で形質が安定していることを確認し、「福花10号」として育成を終了した。

2．「福花10号」は、花色が濃黄（JSHカラーチャート：明緑黄）で、無側枝性であり、花茎の伸長性がよい。消灯から収穫期までの期間は、電照抑制7月及び8月出し栽培で55～56日と安定しており、8月出し栽培での高温による貫生花や花弁のねじれ等の奇形花が発生しない（表1、表2、図1）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1．「福花10号」は、電照抑制7月及び8月出し栽培で白色品種の「優花」と同一施設内での栽培が可能であることから産地で活用でき、夏秋ギク生産の経営性が向上する。

[ 具体的データ ]

表1. 「福花10号」の電照抑制 7月出し栽培における特性 (平成18年)

系統 品種	収穫日 月/日	開花日 月/日	消灯から 収穫まで 日	切り花長 cm	葉数	側枝数	重量 g	花色	花径 cm	小花数		貫生花の 発生率 %
										舌状花	筒状花	
福花10号	7/14	7/24	55	149	43.0	11.2	137	明緑黄	14.4	304	46.8	0
古城(対照)	7/15	7/27	56	96.0	41.5	35.0	90.0	明黄	10.3	476	6.0	0
優花(対照)	7/13	7/25	54	97.6	39.8	11.2	92.0	黄白	13.4	297	3.8	0

注)1. 3月9日挿し芽、3月22日定植、4月6日摘心、3月9日から5月20日まで電照(深夜4時間)

2. 花色はJHSカラーチャート名

表2. 「福花10号」の電照抑制 8月出し栽培における特性 (平成18年)

系統 品種	収穫日 月/日	開花日 月/日	消灯から 収穫まで 日	切り花長 cm	葉数	側枝数	重量 g	花色	花径 cm	小花数		貫生花の 発生率 %
										舌状花	筒状花	
福花10号	8/17	8/24	56	129	38.0	5.2	95.8	明緑黄	11.2	347	91.6	0
優花(対照)	8/21	8/28	60	108	48.4	5.8	97.2	黄白	11.6	190	0	100

注)1. 4月13日挿し芽、4月28日定植、5月11日摘心、4月13日から6月22日まで電照(深夜4時間)

2. 花色はJHSカラーチャート名

3. 施設 8月出しの黄色品種がないことから「優花」を対照とした



図1. 「福花10号」

[ その他 ]

研究課題名：秋ギク及び夏秋ギクの新品種の育成

予算区分：経常

研究期間：平成17年度(平成15~18年)

研究担当者：谷川孝弘、巢山拓郎、山田明日香、黒柳直彦